

第1回新見市観光事業審議会会議録要旨

令和3年1月18日（月）14時～
市役所南庁舎3階大会議室

1 開会

（事務局長）略

2 委員の紹介

（事務局長）略（資料5参照）

3 会長及び副会長の選出

（事務局長）

次に、新見市観光事業審議会規則に従い、会長1名、副会長1名を選出したいと思っております。選出方法などにつきまして、委員の皆さまからご意見のある方はご発言をお願いします。

（委員）

事務局案があればご提示ください。

（事務局長）

委員から、事務局案というご発言がありましたが、その他ございますか。

それでは、事務局案を提案したいと思います。

まず、会長に観光協会の井上委員、副会長に岡山県観光課の善勝委員を提案させていただきますが、いかがでしょうか。

～拍手多数～

ありがとうございます。拍手多数ということで、承認いただきました。

それでは、井上委員に会長の職、善勝委員に副会長の職をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

井上会長、善勝副会長には、前の席に移動していただき、ごあいさつをお願いします。

（会長）

ただ今、新見市観光事業審議会の会長に選出いただいた井上です。微力ながら、全力で務めさせていただきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

（副会長）

ただ今、副会長に選任いただいた岡山県観光課の善勝と申します。微力ながら会長を補佐して、審議が円滑に進みますよう務めさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

4 議事

(事務局長)

議事にあたりましては、新見市観光事業審議会規則の規定により、会長が議長となり、これからの議事進行をお願いします。

(会長)

それでは、お手元の次第に沿って議事を進めさせていただきます。

(1) 諮問事項の趣旨

(会長)

まず、(1)の諮問事項の趣旨について、事務局から説明をお願いします。

(事務局長)

お手元に、配付させていただいた資料1「諮問書の写し」をご覧ください。

本日、市長から新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた新見市観光事業について、審議会に対して意見を求められました。

本市の観光事業は、平成30年に7月豪雨災害および同年の台風第24号災害の影響を受け、主要観光施設の誘客数が平成29年度は約30万7千人でありましたが、平成30年度はマイナス19.5%で約24万7千人と約6万人が減少している状況です。

翌年の令和元年度の誘客数は、4月から8月は前年同期でプラスと巻き返しを図っていましたが、ご承知のとおり9月集中豪雨災害を受け、9月から3月は前年同期でマイナスとなり、年間では前年よりは3万人の増加で、27万3千人となっております。

本年度は、頑張っていこうという最中に、新型コロナウイルス感染症がございまして、大きく低迷するということになり、また、この期間、千屋温泉の休館もございまして、入込客数の比較が難しいですが、さらに6万人程度の減少が見込まれています。

このように頑張っていこうとしている中で、いろいろなことが起こっており、特に最近では新型コロナウイルスの影響を受けています。

ただ、ウイルスの収束を見据えながら、収束してから考えるのではなく、収束後にどうしていったら良いかを今から考えていく必要があると考えています。

先ほど市長が委嘱式で申し上げたとおり、本市観光事業が将来にわたって発展するため、それぞれの立場から、ご意見をいただきたいということが諮問書の内容でございます。

(会長)

ただいま事務局から説明がありました内容について、皆さまからご意見ご質問などがありましたら、発言をお願いします。

ご発言がないようですので、諮問事項の趣旨説明について、ご了承いただける方は、挙手をお願いします。

～挙手多数～ ありがとうございます。

(2) 今後の審議の進め方

(会長)

次に、(2)の今後の審議の進め方について、事務局から説明をお願いします。

(事務局長)

お手元に、配付させていただいている資料2「観光事業審議会の審議の進め方」をご覧ください。

審議会は、本日を含めて3回を予定しています。事務局が事前に皆さんの予定をお聞きする中で、設定させていただいた日時です。

本日、第1回審議会の議事は、市の観光事業の現状と課題をお知らせさせていただいて、現状を把握していただくことが目的です。

第2回審議会は2月17日に予定させていただいており、議事は、市観光事業の課題の把握とそれを踏まえた今後の展開について、さまざまなお立場の中でご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えています。

第3回審議会は3月19日に予定し、市観光事業をこれからどうして行ったら良いか、こうして行ったらもっと良くなるのではないかなど、現状を把握しながら今後の展開についてご意見をいただき、答申案として皆さんにお諮りし、答申の内容を考えていくということをしていただきたいと思います。

3月26日に諮問に対する答申をしたいと考えています。

(会長)

ただいま事務局から説明がありました内容について、皆さまからご意見ご質問などがありましたら、発言をお願いします。

ご発言がないようですので、今後の審議の進め方について、ご了承いただける方は、挙手をお願いします。

挙手多数により、了承されました。

(3) 市観光事業の現状

(会長)

次に、(3)の市観光事業の現状について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

お手元の資料3「令和2年度新見市観光事業審議会資料」をご覧ください。

略(資料3を読み上げて説明)

(会長)

ただいま事務局から説明がありました内容について、皆さまからご意見ご質問などがありましたら、発言をお願いします。

(委員)

1点確認します。例えば北西エリアで神郷第一スキー場が休止していて、再稼働する場合、修繕に億を超える費用が見込まれるというような表現があります。この審議会では、施設を潰しなさい、逆にお金を掛けてもっと整備しなさいという結論を望まれているのか。それとも、そういうことは後回しにして、資源があるので金銭的なことは後にして何か考えたらどうかということ望まれているのか。など、この審議会ですべてどこまで入っていけば良いのかをはっきりしていただかないと、ワーキンググループを組織した方が良い場合も出てくると思うし、方向性だけを今の資料に加えるもの、削るもの、そういった中でこういった方向性をもう少し具体化して検討してくださいということでもいいのか。こことここを結んでプランを作ってもらおうといった具体の箇所を出し組み立てていくのか。そういったところをきちんと線引きしておかないと、今後、実質2回の審議という中で、どこまでの話をしてよいのか。方向性が定まらず曲折しても困るので、その辺を確認させていただきたい。

(事務局長)

商工観光課としましては、例えばここにすごいものを建てるとお客さんが来るのではないかとことを望んでいません。今ある資源の中で、うまくつながっていないところとか、連携できていないところはこういう風にしたらもう少しお客さんが増えるのではないかとこの審議会の中でいただければと思っております。先ほど山本委員からもありましたが、この3カ月ほどで、答えが出るとは思っていません。この審議会を通して、来年度以降話をしていかなければならないことでもありますとか、今おっしゃっていただいたワーキンググループ的などころでご意見をいただくということにもなってくる可能性もございます。当然そういう風になると思っておりますし、この審議会では、ある程度、現状をご提示させていただいた中で、こういう風にやれば良いのではないかと、こういった考え方で観光振興を進めて行くのかといったところまでをご審議いただいて、そこからプラスで、協議会というような形での継続につなげて行きたいと考えています。

(委員)

資料の数字が文章形式で示されていて分かりにくい。例えばこの施設はいつ作ってどれぐらい投資したか。入込客数がどれぐらいか。年間修繕料とか、施設使用料とか管理料とかを表形式で記載してもらって分かりやすい。それによって施設がどれぐらい費用対効果を出しているかということが自然に出てくる。それによってその施設をこれからどのように育てていくか、あるいは、閉鎖するというようなことも検討しなくてはならないようになるのではないかと。もうひとつ。市外の比較的近いところで、県はこういった観光ルートを推奨しているというのがあると思います。新見市の場合、具体的に市外の近隣観光施設にどれぐらい入込客があるのかとかという情報をもうちよっと範囲を広げて新見市の近くに來られた観光客をどうしたらこちらまで回ってもらえるかの基礎となる情報を次回教えてもらえたらと思います。

(事務局長)

表記の方法が分かりにくいということで、また資料を整理したものをご提示できたらと思います。市外の近隣の観光施設の状況も調べてご提示させていただきたいと思います。

(会長)

アクションプランに関して、コロナとか災害とかで進んでいないとのことですが、今後ワーキンググループあたりで進められると思いますが、やはり進めていく中ではアクションプランを実現化していただいて、観光客を新見市へ回していただくように詳細なものがでてくればいいのかと思っています。今、コロナの現状でやっていかなければならないのは、情報発信なのか何か分かりませんが、もう少し具体的にしていけないのかと思っています。

(事務局)

観光アクションプランの22の行動・アクションですが、平成30年度に、災害直後くらいに一度集まり、具体的な取り組みについて話し合いが足りてないということで、今後、協議会のようなものを作ってより理解を深めていったり、どういう行動に結びつけたらいいか検討しようという話まで進んだようです。ただ、その後、立て続けに災害ということで、そちらに対応が回ってしまい、その集まりをして内容を深めていくということが全くできていない状況です。そのため、具体的にこれについて市の方で、こういう事をしているというのが見えておらず、お示しできない点も多くございます。どのように実現していくかにつきましても、市としては課題となっております協議会のような形で深めていきたいと思っておりますが、皆さんの方からこういうことをして考えていったらいいのではないかというご意見がございましたら、伺って、前に進めていきたいと考えております。

(委員)

先程言われました戦略プランの関係に私も加わっており、これにつきましては事務局からも災害等という話もあったのですが、当時の市長に答申を返し、これをやってくださいということをお願いして、そのまま棚上げになったんです。分かるんですよ、災害もあったし。しかし実に2年間も全く動いてないという現状があったのですから。その災害があったから云々というのもひとつはありますけど、そういった中でも答申を受けた以上、取り組んで行こうということをしっかりやっていただかないと、折角、委員さんを招集しても、委員さんの意見がそこへ上がっていかないということにつながりますので、そういったところで、しっかり今後はやっていただかないといけないと思います。

委員さんが言ったように、既にエリアでゾーニングしてやられていくというようなことは、決定でやっていくとすると、ゾーニングで考えていくのか、ゾーニングをどういうふうにするのか先が見えない。この説明だけでは。どういうふうにしていけばいいのか。平行してもう既に、今日、駅長さんいらっしゃいますけれども、駅周辺の事業も立ち上がっています。新見駅は観光拠点の大きなものだと思います。そういった所の連携とか、そういった中でどういうふうにしていくか、大

きな問題を含んでいるので。今日を入れてあと2回で答申を返す。どこまでの答申を返すのかということになろうかと思いますが、実際の観光資源のいろいろな所を洗い出して、前の戦略プランとリンクしていくと膨大な作業がたくさんあると思います。それから、今のゾーニング等に結びつけていくということになろうかと思いますが、そのあたりを事務局はどういうふうにお考えかお示しいただきたい。

(事務局長)

事務局としては、この短期間で答申を返して行って、どこまでできるのかという所があります。そのため、大きな方向性というところであれば、答申が出せないだろうと思っているところがございます。ただ、こういう考え方の中で、今集まっていたいただいている皆さんがこういう方向性でいった方がいいということ、今回叩き台として今のゾーニング的なものをご提案させていただいております。この考え方でそれぞれの地域課題を出して行って前へ進んで行こうじゃないかというような方向性を示していただきたいと考えているところがございます。その後は、先程申し上げましたように、観光がこの2、3カ月で劇的に変わるとってはございません。やはり、地道な活動でやっていかなければなりません。来年度以降も今回のような審議会という大きい組織ではなく、前回の観光プランの時にもご提案いただいたようですが、協議会というようなものを作って継続的にやっていこうというようなことだったので、当局の方ができていないということで、そこは真摯に反省させていただいて、やはり、継続的に細かいところについても引き続き来年度以降やっていきたいと思っております。まずは、こういう考え方で、それぞれの地域が広いから、それぞれのところで、方向性を出して現状を確認して、今後はこういった展開でいったらどうかと大きなところで答申をいただきたいというように考えているところがございます。

(委員)

今日の議事は、現状と課題の把握がメインで、次回から今後の展開というふうにあります。実際、実質説明いただいた訳ですから、ある程度分かったので、今からの発言というのは、今後の展開に対する意見でもよろしいでしょうか。

(事務局長)

はい、それはそれで次へつながるので、私どもの方としてはよろしいかと思えます。

(委員)

ゾーニングのことが出ていますが、あくまでもこれは、こういう事があるというふうな中で、個人的に言わせてもらえば、例えば決定的に新見市に足りないものは、資源の把握はできています。課題も分かりました。メニューがないんですね。体験させる。例えばゾーニングにとらわれず、天然記念物巡りとか自然保護活動に参加してみませんかとか、西の鯉が窪からカルスト台のウスイロヒョウモンモドキ、間欠泉、羅生門、珍しい山野草もあります。あまり広げ過ぎても良い活動ができないかも分かりませんが、そういった宿泊と体験に関してどういった連携ができるか、

今までは旅行会社の方へプランを作って、どうですかということで流れてたんですけど、ではなくて、正直な話、インバウンドで外国人が大勢来るとか、大型バス3台も4台も連なって新見市にお客さんが来るということ望むよりは、そういった着地型の観光で滞在していただいて、こういった体験メニューができるか、成功しているところを見ると、体験メニューの提示の仕方、お客さんが食いつくか食いつかないかということが多くあります。ですから、そういった方向で進んでいかないと、ただ観光協会へ任せてという考えであるとか、旅行会社へ補助金を出すから自分たちでやってもらうとかではなくて、そのためにはこういった資源があるからこういった役割連携をしましょうということを組み立てる組織、資源のある地域の代表者の参加した組織をいずれつくって行かないと、中々、地域滞在・体験型の観光が作れないじゃないかと思っています。ですから、ぜひ、そういったことも、ゾーンも大切なことだし、公的な施設も本当に何が必要なのか、例を上げて申し訳ないが、干子リゾートをご覧になっていますか。あの施設を見て、ちょっとそこに泊まって体験しようという気分にはなりません。池もヘドロが溜まったような感じだし。本当に活かすのであれば行政も思い切って、お金を掛けるところは掛ける。掛けないならもう掛けないで、変な姿を残さない方がいいと思うし、そういうこともこれから検討課題ということで承知してくださるかと思います。

(事務局長)

ただ今ご意見にありましたが、体験型のようなメニューがないということがありますが、我々としてはあくまでもゾーンに分けるというものを考えたのは、考えやすくするために想定してみたというところもあります。やみくもにその全体をやってしまうと中々薄れてしまうのではないかとということもあり、少し皆さんに絞った形で、いろんな所の資源をもう一度洗い直してみませんかという思いもあります。それぞれのゾーンで考えていただいた中で、体験的なものもメニューとして出てくるのかなと思ひまして、そのメニューをそれぞれエリアごとに洗い出してみて、これとこれをつなげられるとかということが、将来的に出てくればいいのかなど思っているところなので、これに固執されなくても良いと思いますが、考え方の一つとして考えやすいようにという提案でございます。

それからもう一つ、既存の施設のことですけど、我々にとってありがたい話で、やはりお客さんが集まる施設であれば、もっとこういうふうにして、ここにお金をかければたくさんお客さんが来るということであればお金を投じていけば良いですし、いくらお金を投じて管理する人がちゃんと目的を持ってやっていなかったり、そうやってもお客さんに結びつかないということであれば、やはり思い切って手を離していくということも必要ですし、お客が集まるポテンシャルが高くて集まる可能性がある所に更に投資していくということも考えていかなければならないということになるかと思ひますので、その辺でゾーニングした地域の洗い出しの中で見えてくるのかなと感じておりますので、大変貴重なご意見ありがとうございました。

(委員)

前回の時も審議をさせていただいて「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」というのが仮称で決まりました。たまたま御殿町には白と黒の両方があります。ワーキングになってしまうかもしれないですけど、観光の原点で、今回のように業者を入れずに、市がやってやろうという心意気を感じ、嬉しく思っています。その中で、基本はやはり点と線と面というのが昔からの観光の原則だと思います。ここへ点がいっぱいあります。今回非常にありがたい事に考えやすくされた例をあげていただいて、これだけの情報を集められてちょっとびっくりしたんですけど、本当に有意義なことだと思います。知らない者から見るとこれだけあるんだとか費用が掛かっているのかなどと、いろいろと感じたことはあるんですが、折角でございまして、費用弁償の問題は考えずにボランティアを集めて、この関係者全員を一回集めて、情報交換するなり、資料を持ちよるなりしてはどうでしょうか。パンフレットはそれぞれ置いていますが、どこに行ってもバラバラで、連携できなければ効果は上がりません。大きい所では観光協会なんだろうけど。そういう所の方が集まって、その中でまたエリア別に集まることでいろいろな案が出てくるんじゃないでしょうか。ボランティアでワークショップをやられるといろいろな案が出てくるんじゃないでしょうか。その後にそこに業者を入れて、業者の方から見たときにすりあわせをしたらいくつかの今後の参考にするべきところが見えてくるんじゃないでしょうか。御殿町にもこれまで大型バスに40人から50人も乗って来られていた状況が、今は20人ぐらいで来られるし、中型バスに10人ぐらい乗って来られる。とても採算ベースで合う話ではないと思います。これからの観光は変わってくると思います。備中町並みネットワークの倉敷市で県民局を中心にやっていますが、毎年やっていて、町家をつかって暮らそうというものです。今までは、町家の中でやっていたが、コロナの関係で、まち歩きを中心に行いました。そういうふうに変えていくと、今までとは違ういろいろなものが見えてくると思います。ぜひ、大変でしょうけど、これだけ点がありますから、なんとか線に結びつける。そこから面にまでできるのではないかと期待しています。

(事務局長)

貴重なご意見ありがとうございます。我々、素材を拾い集めて、皆さまにご提示をさせていただいて、点と線と面という形になって行ければと思います。我々も皆さんと同じ方向を向きたいという気持ちがあり、このようなご提案をさせていただいています。こういうことを契機にし、皆さんと一緒に考えて行ければと思っています。またさらに、皆さんの方からお声があると、協議会あるいはワークショップなり、本当にいろいろなご意見をお聞きする機会がもてればいいかなと思っています。

(委員)

来年、岡山ディスティネーションキャンペーンがあることから、今年プレキャンペーンということで、大々的にやってまいります。また、新見では、高梁新見間で3月にイコカが使えるようになり便利になります。銀河という寝台列車が、今は大阪から下関を走っていますが、春にはまた出雲大阪間を走るということになりました。

た。やくも号は、チケットレスを進めており、通常、岡山までの特急料金が自由席で1200円、指定だと1700円のところ、4月からは700円で行けることとなります。チケットレスで予約等が必要ですが、そういう便利な切符を売り出して行きます。そういうことで、新見にそういう施策が潤っていく状況なので、できるだけ、その施策を活用して、少しずつでも観光を促進していきたいと思っています。私もいろいろ観光施設に行っ、素材も観光地も本当にいろいろあって、ひとつひとつ本当に良いものがあると思っています。まちを歩いてみると江戸時代からあるようなものは本当に良いなと思います。アクションプランにもありますように、ここに来られている人は一生懸命観光を促進しようと工夫されている人ばかりですが、それ以外の人ややはりおもてなしの心というものが少ないというか、あいさつしても返事が帰ってこない、横断歩道に立っていても止まらないというのが本当に寂しくて、前職は児島の駅長をしていましたが、児島ではそんなことはなくて、なんとかしようというのが、市民にも根付いて一生懸命さが感じられて、よそから人を呼んでやっていくというような、指導する人以外の人もやられているということで、そこら辺をなんとか前向きにできたらと思っています。

(事務局長)

我々といたしましては、この審議会で、今日お越しいただいている報道の皆さんを含みまして、このような話し合いが進んでいるということや市民の方々に分かっていたいただきたいですし、分かりやすく市民に伝えるためにも、この度ご提案させていただいたようなエリアに分けております。その中で来られたお客様にしっかりとしたおもてなしができるということをそれぞれ市民の皆さまが考えるきっかけになれば良いなと思っています。その辺の方向性も皆さんと共通認識させていただきながら進めてまいりたいと思います。

(委員)

今回の議論の範囲ですが、新見市観光アクションプランについては、これで決まりという形の上で議論すると感じていますが、この考え方で良いのかということと、アクションプランというのは、8ページの「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」で全ての資源を活かしていくという計画だと思います。ただ、それぞれのエリアから議論をピックアップして全体的に創案的にやっていくのかなと思いますが、もうひとつの考え方としては、例えば千屋牛なら千屋牛でそれを中心に出して他がついていくという感じなんです、その辺がボトムアップで決めるのが目的なのか、例えば倉敷美観地区では大原美術館という中心があってその中心に触れずに、下からボトムアップして観光を作って行こうという考え方なのか、それとも例えば代表的な新見市で言えば千屋牛とかそれに周りがかくっついていくのか、そこら辺の議論が今回は関係なくて、例えば8ページの「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」というのを目指すように議論していくのかというその議論の範囲みたいなものが知りたいと思います。

(事務局長)

なかなか難しい質問で、答も難しいですが、相原委員からご意見をいただけませんか。

(委員)

「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」のことですが、前回の観光事業審議会で、杉山先生がコーディネータとして、地域ブランドを求めてくださいという話になった。地域ブランドというのは新見にはたくさんあって、いろいろなものを洗い出したんです。千屋牛やピオーネといったツールをひとつずつ取りあげていこうかなという思いが当初はあったんです。それはダメだと地域ブランドというものはひとつなんだと、それに固執されたので、結局、そういったすべての産物これから幾多のものが生かされて、この地に動いているいろいろな事象が、この石灰台地、阿哲台地の中で全て発生しているものだという考えから「白」の石灰と「黒」は千屋牛もある。そういうような非常に難しい課題を与えられた。千屋牛だけという線で行くこともできたんですが、すべて総括したブランドでひとつ、それが「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」ということで、石灰を基調にした「白」といろいろなものがあったんですが、SLの三重連が当時石灰を運んだその色は「黒」です。そういった「白と黒」というものに集約して答申を返したのが仮称でしたが、そういう立てりできている。流れを説明させていただきましたが、その中で抜粋したのが、アクションプランというようなことであって、それをうまくリンクできるかどうかはこれからは関わってきますが、すべてのアクションプランと整合性を持つということにはならないかもしれませんが、その辺が協議の進み方次第かと思います。

(事務局長)

当時のアクションプランの考え方というのは、当時審議会委員をされていた委員がおっしゃられたとおりで、我々とすれば、「白と黒の不思議らいむアーツにいみ」ということに囚われすぎると、また先に進まなくなってしまうというところもあるので、キャッチフレーズが先行しすぎて、皆さんちょっと分かりにくくなったので、進まなかったということにもつながったのかと思います。今回参加いただいている委員の皆さまには、地元を代表している方が多く、本当に地域の中で活動されている方々が直面している課題であるとか、こうしたいんだというところを洗い出す切っ掛けとなればいいかなと思っています。そのために大きな方向性というものを審議会でベクトルを合わせていくと言いますか、全体としてがんばっていきたいということの切っ掛けとなればと思っています。なかなか皆さんにご理解いただけるように説明できないのがもどかしいのですが、ちょっと考え方を整理してやってみませんかということ事務局としては提案させていただきたいという気持ちです。

(委員)

地場産業である農林業の振興に観光業を結びつけて考えていただけたらありがたいと思っています。正田のふれあい市場の駐車場が少ないということについても、市が農協と一体となって駐車場の整備についても考えられると思いますし、農林業でいうと、花見養魚センターや大原観光果樹園は民間でがんばっていますが、それ以外ではなかなかありません。農林業の振興ができるようなプランを考えて行けたらありがたいと思っていますので、少し掘り下げて議論できたらありがたいです。

(事務局長)

観光のことを議論していく中で、例えば、豊永であればブドウでありますとか、草間だとモモでありますとか、哲西ではコメでありますとか、いろいろな農林業を振興していると思います。新見市の観光を考えたときにそこと切り離せない部分が出てきます。観光農園では農林業との関わりが出てきます。そういうことを議論していけば、そういう方々とも観光をがんばっていかないといけないということを皆さんの中で理解できていけば、今後につながっていくと思いますし、農協の駐車場の話もありましたが、ここでこの話が出たよということが農協さんへ伝わって行く中で、一緒になってこうやって行きましょうということになるかもしれませんし、審議会を切っ掛けにしてそういうような話につながっていけばいいのかなとも思っています。

(会長)

たくさんの課題をいただきました。皆さんと次の会議で検討して行ければと思います。

その他、ご発言がないようですので、市観光事業の現状について、ご了承いただける方は、挙手をお願いします。

挙手多数により、了承されました。

(4) その他

(会長)

次に、(4) その他について、事務局から何か発言がありますか。

(事務局長)

特にありません。

(会長)

その他、委員の皆さまから何かご発言はありますか。

ご発言がないようですので、(4) その他について終了します。

(会長)

以上で、すべての議事を終了します。委員の皆さまのご協力に対し、お礼を申し上げます。それでは、事務局にお返しします。

(事務局長)

会長には、円滑な議事進行をいただきありがとうございます。

5 その他

(事務局長)

それでは「5 その他」ということで、全体的に何かご意見、進め方などについてでもご意見があれば、お願いします。

岡山県の動きで、副会長からお願いできますか。

(副会長)

市の観光と県の観光は取り組んでいる内容というものが大きく違っていて、市は地域に密着していて、地域の方が納得された形で動かして行って、地域の皆さんが協力していただかないと、観光がきちんと進んでいかないものなのかなと思えました。皆さんのご意見をいろいろと聞かせていただく中で、今後、県の事業にも参考にさせていただけたらと思っているところです。先週、令和3年度の県の当初予算を発表させていただいて、令和4年度にJRと連携して、ディステーションキャンペーンを開催することにしています。そのプレキャンペーンを今年7月から9月に実施し、本番の令和4年に向けて、販売促進会議のような全国から旅行会社やメディアを進めたプレゼンテーションを9月に開催するというので事業を進めています。新型コロナウイルスの感染が拡大しており、観光ではなかなか、人を呼ぶ、集客していくということが非常に厳しい状況ではありますが、JRの力を借りると、県だけでPRするよりも、JRは全国的に情報発信する大きな力がありますので、この機会を活用して、今年から来年の夏、来年の夏にはコロナが収束していることを望んでおりますので、そこでしっかりと全国から観光客を呼び込んで観光需要をしっかり回復させていただきたいと思っています。今、各市町村の皆さんに、観光素材であるとか、観光プランとか、PRしていくものを新見市にも相談させていただいています。これはすごいチャンスなので、ぜひこういったものを売っていきたいというものがあれば、積極的にPRさせていただきたいと思っていますので、しっかり連携してやっていききたいと思っています。

(事務局長)

我々の説明もうまくいかないところもあります。ただ、コロナというものがいつまで影響するかということも見通しが難しいところですが、コロナが収束してから考えていたのでは遅れてしまうと思っています。コロナ禍ではありますが、これから皆さんのご意見をいただいて、どのような方向を向いていかなければいけないのかを一緒に考えさせていただければと思っています。今回は、事務局から現状の説明ということに重きを置いて説明させていただきました。ポストコロナを考えていく上で、今このような現状にありますということ、まず、皆さんにご理解していただいた上で、その次のことを考えていかないうまいこといかなうと思っていますので、今回いろいろな資料をご提示させていただいております。帰られまし

て、いろいろなことを考えていただければありがたいと思っています。審議会では、方向性を皆さんとひとつにさせていただいて、その後どうして行くかにつなげていきたいと考えているところでありますので、引き続きよろしく願いいたします。

6 閉会

(会長あいさつ)

本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。今後、審議会は2回、3回と続いていきます。皆さまのご協力をいただいて審議を進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。